

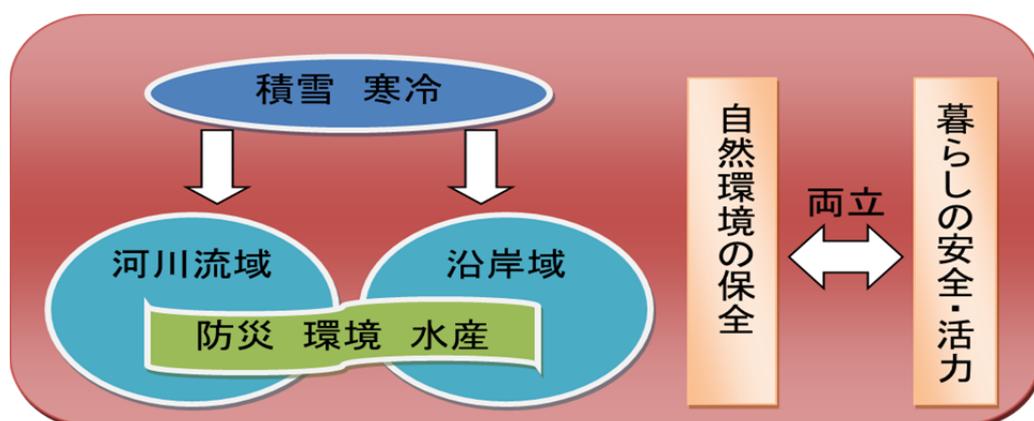
寒地水圏研究グループ

寒地水圏研究グループの前身は、(独)北海道開発土木研究所環境水工部であり、河川、環境、港湾、水産土木の4研究室で構成されていたが、平成18年の土木研究所との統合を機に、グループ名を寒地水圏研究グループに、チーム名を寒地河川チーム、水環境保全チーム、寒冷沿岸域チーム、水産土木チームと変更した。

当研究グループは、河川流域や沿岸域における暮らしの安全・安心や活力ある人間活動の場の確保と豊かな自然環境の保全とを両立させるため、防災・減災技術、環境調和技術、生物生産資源の保全・育成技術などの開発に取り組んでいる。積雪寒冷な北海道を主たる研究フィールドとする強みを生かし、河川流域と沿岸域との相互作用に着目して、河川・湖沼・沿岸域の結氷や融雪に伴う諸現象の解明、構造物の保全・管理技術の開発、河川や沿岸海域の生物環境・資源保全に関する研究など、研究テーマは非常に広範囲に及んでいる。

これらの研究においては、グループが陸域から海域までの水圏をカバーする4研究チームで構成されている特徴を生かし、単に各分野の研究にとどまらず、水・土砂・栄養塩等の物質輸送現象の連続性や、それらに起因する環境応答の相互性など、研究フィールドをクロスさせた研究連携にも取り組んでいる。

第4期中長期目標期間における研究としては、気候変動に伴い近年頻発、激甚化する水災害に対する防災・減災技術の研究に重点的に取り組む。とりわけ、堤防決壊や河岸侵食、河道の蛇行などに起因する災害が全国で多発している。また、海象変化に伴う高波・高潮などの外力の増大も懸念されている。加えて、大規模地震による津波災害の発生も危惧されているところである。こうした、顕在化する行政的課題解決に向けた研究に積極的に取り組んでいく予定である。もう一つの柱として、日本における水産資源の安定的確保と担い手となる漁村地域の振興を図る観点から、水産資源の保護及び増養殖技術についても積極的に取り組んでいく。とくに、沿岸施設や漁港施設を活用した、水産生物の保護育成機能の研究や栽培漁業支援技術の開発に向けた研究を重点的に進める予定である。



寒地水圏研究グループの研究イメージ